

なゆたん通信

燐

伝えるための工夫その②

第67号 令和8年1月15日発行

“読めない・書けない子”を書体から助けたい—— 教育現場における日本語ユニバーサルフォントの草分け的存在 「UDデジタル教科書体」誕生秘話

みなさんは普段の生活で目にする文章の書体（フォント）に注目したことはありますか。

メディアによってさまざまなデザインのフォントが使用されていますが、そんな中で

「読み書きにハンデのある人でも読める」ことを目標として開発されたフォントがあることをご存じでしょうか。

今回は、ある書体デザイナーの方が8年をかけて開発した、「だれにでも読みやすいフォント」が生まれるまでの物語を記した書籍を紹介します。

特別支援学校で目の当たりにした「社会の“穴”」

本書は書体デザイナーの「高田裕美（たかだゆみ）」さんの半生と「UDデジタル教科書体」というフォントが制作され世の中に広まるまでの歴史を記したノンフィクションとなります。

2007年、タイプバンクというフォントの制作会社に所属していた高田さんは、当初、電車の車内で使用されることを想定した「お年寄りでも読みやすい書体」の開発に向けて視覚障害をもつ人たちが集うさまざまな場所へ赴き実態調査を進めていました。そうした中で、視覚に障害をもつ子どもたちが通う特別支援学校の状況に愕然とします。

当時の支援学校では、子どもたちの視覚特性にあわせ、もとある教科書の文字を大きく見やすくした「拡大教科書」をなんと手書きで作成し配布していました。当時から既製品としての拡大教科書は存在していたものの、価格がとても高価であり、すべての支援学校の児童生徒が気軽に購入できるようなものではなかったのです。

ロービジョンの子どもたち（中略）の教育にかかわる人々が置かれている困難な状況を目の当たりにした私は、「これは社会に開いた“穴”だ」と感じました。（95pより引用）

既存のフォントの問題点

ロービジョンの子どもたちにとって、既存のフォントで制作された教材は「見づらさ」を抱えていました

一般的な明朝体

町長 あお

一般的なゴシック体

山口 わり

横線 縦線

線の太さに強弱があり、
横線が消えて見える場合がある

線が太く一定なため見えやすいが、
ただしい運筆や画数でないため
教育現場には不向き



冬山道ふ 冬山道ふ

感覚過敏な子たちにとってストレスに感じうる箇所

また、視力に問題はないものの、感覚過敏な子たちにとって、教科書体や明朝体特有の筆を押し付けた形状・先端の尖った形状・線の太さの強弱が大きい部分は、それが気になってしまったり、恐怖やストレスを感じることもあるという状況も見えてきました。

こうした調査の末、読み書きに困難を抱える子どもたちのための「文字の形状や画数は明朝体のように指導要領に沿いつつ、線の太さはゴシック体のように太く均一、また線の先端は丸みを帯びている」新しいフォントのアイデアが浮かび上がりました。

完成したフォントが持つ大きな可能性

数百文字以上の字形の修正、会社の売却、新たな環境での企画の停滞…。さまざまな困難を乗り越えた末、2016年6月20日に「UDデジタル教科書体」というあらたなフォントがついにリリースされました。

フォント名に含まれている「UD」は「ユニバーサルデザイン」を意味しており、ここで提唱されている

「すべての人が平等に、快適に、そして同じように利用できることを目指す」

という理念を持ってデザインされたことから、この名称となりました。

さらに翌年にはWindows 10の標準フォントに採用されたことで全国の教育現場でも一気に広まりました。（なお、今回のなゆたん通信の本文もこの「UDデジタル教科書体」で書いてあります）

完成したフォントが実際にどのくらい「読みやすい」のかを評価するための調査を行ったところ、ロービジョンの子どもたちだけでなく、先述の感覚過敏の子や、視覚機能や知能には問題のないものの、文字の読み書きに著しい困難を抱える「ディスレクシア（学習障害、LD）」の子どもたちにとっても、文章の読み速度や理解度に関する効果があることが判明しました。

発達障害などを抱える子どもたちを支援する施設のあるスタッフさんが、高田さんにこう話しました。

「それで、あるときUDデジタル教科書体のことを知って、試しに教材のフォントを変えてみたんです。そしたら教材を見た瞬間、その子が『これなら読める！ おれ、バカじゃなかったんだ！』って。（中略）みんなで男の子の周りに集まって、泣いてしまいました」（13p「はじめに」より引用）

まとめ・本書の魅力

「UDデジタル教科書体」は開発を始めてから完成までに8年もの歳月がかかりました。本書ではこの期間に起きた多くの困難がありありと記されています。しかし、それを乗り越えて完成させたフォントはいま、たくさんの場所で活用されています。

デザイン・教育・障害者支援に関心がある人だけでなく、会社をはじめとするいち団体の構成員として「企画」を立ち上げ遂行したことのある人にもきっと響くことでしょう。

「だれ一人として取り残さない社会」の実現にフォント開発の面からチャレンジする方の物語をぜひ読んでみてください。

UD FONT
by MORISAWA

4 質の高い教育を
みんなに



ちなみに、なゆたでも、子どもたちや保護者のみなさんにお渡しするいくつかの書類では徐々にユニバーサルフォントの導入を進めています



「なゆたん通信」
バックナンバーはこちら

<http://yutaka-wel.com/?cat=36>



補遺 日本におけるユニバーサルフォントの略歴

1970年5月	日本で「障害者基本法」が施行される
2006年7月10日	株式会社イワタが松下電器産業株式会社（現：パナソニック）と共同開発した日本初のUDフォント「イワタUDフォント」がリリースされる
2009年9月	株式会社タイプバンクが慶応義塾大学 中野泰志教授および博報堂ユニバーサルデザインとの共同研究により開発したUDフォント「つたわるフォント」シリーズとして「TBUDフォント」の15書体がリリースされる (https://www.typebank.co.jp/tsutawaru/)
2009年11月	株式会社モリサワからUDフォント「UD黎ミン(れいみん)」、「UD新ゴ」、「UD新ゴ NT」、「UD新丸ゴ」の21書体がリリースされる (https://news.mynavi.jp/techplus/article/20090901-a069/)
2011年8月	障害者基本法が改正され、「可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるよう配慮」（16条）することが求められるようになる (https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/kaisei2.html)
2013年9月7日	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決定する
2016年4月1日	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（通称：障害者差別解消法）が施行される
2016年6月20日	モリサワから「UDデジタル教科書体」がリリースされる (https://www.typebank.co.jp/20160419/)
2017年3月	小学校では2020年度からの完全施行を目標とした学習指導要領の改訂が行われる 配慮すべき事項として 「障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を通して、協働することや、他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる活動を充実すること。」 (小学校 第6章 特別活動 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(4)) といった内容が追加される
2017年9月27日	モリサワから タイプバンクによる「TBUDフォント」をベースに新たに開発された「Word」「Excel」「PowerPoint」といった「Microsoft Office」に最適化したUDフォント 「BIZ UDフォント」のリリースが発表される (https://www.morisawa.co.jp/about/news/3657)
2017年10月17日	コンピューターOS「Windows 10」の無償アップデートにて「UDデジタル教科書体」が日本語環境向けに追加される。これにより、一般家庭や多くの教育現場においてもこのフォントが使用可能となった。
2020年以降	啓林館をはじめとする多くの出版社が2020年度版の教科書に「UDデジタル教科書体」を使用する (https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/sho/text_2020/sansu/ud.html)